研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-770		21-055	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

The longitudinal associations between trajectory of and quantity of alcohol consumption and subsequent changes in blood pressure levels among non-hypertensive adults
非高血圧成人における飲酒量の軌跡とその後の血圧値の変化との縦断的関連性

執筆者

Sukyoung Jung, Mi Kyung Kim, Jinho Shin, Bo Youl Choi, Young-Hoon Lee, Dong Hoon Shin, Min-Ho Shin

掲載誌

Br J Nutr. 2021 Nov 14;126(9):1380-1388. doi: 10.1017/S0007114521000088.

キーワード	PMID
飲酒量の軌跡、血圧変化、累積平均飲酒量、縦断研究、最近の飲酒量	33441197

要　旨

目的：反復測定により飲酒量の経時的変化を包括的に評価することで血圧変化との関連について新たな知見を得られる可能性がある。本研究は、長期的な飲酒の軌跡と量と、血圧（BP）および脈圧（PP）の変化との関連を検討した。

方法：Korean Multi-Rural communities Cohort は、韓国の 3 つの農村郡の地域住民からなる前向きコホートであり、2005 年～2009 年に心臓病、脳卒中、がんの既往がなく、40 歳以上の 8576 人が参加した。本研究は追跡調査（中央値 5.3 年）を含めた全 3 回の健康診断を受診した非高血圧者 1682 人（平均年齢 59.2 歳、男性 37.7%）を対象とした。飲酒状況は健康診断時に質問票を用いて、生涯を通じた飲酒の有無、現在飲酒歴、現在飲酒者における過去 12 ヶ月のアルコールの種類、平均飲酒頻度、1 回あたりの飲酒量を調査した。飲酒量に関する評価は、男性が 30 ml/日（2 単位）以上、女性は 0 ml/日以上を分類基準とした。主要アウトカムであるベースラインから 3 回目健診時の BP と PP は標準化された方法で 2 回測定の平均値とした。一般線形モデルおよび Tukey のポストホック比較検定、飲酒量は多変量モデルにより各カテゴリーの中央値を連続変数とし、線形傾向検定を行った。

結果：男性では、累積平均飲酒量 30 ml/日以上が収縮期血圧（SBP）上昇と関連した；ベースライン SBP 未調整モデル（2.9mmHg、P = 0.032），調整モデル（3.6mmHg、P = 0.001）。また直近の飲酒量と SBP は有意な関連を認めた；ベースライン SBP 調整モデル（3.9mmHg、P = 0.003）。PP はベースラインの PP 調整モデルでのみ同様の関連を認めた。男性の拡張期血圧、女性の BP、PP は有意な関連が認められなかった。

結論：飲酒と血圧の関連は、軌跡よりも 30 ml/日以上の飲酒が SBP の上昇に関連している可能性がある。また最近の習慣的な飲酒は短期的に血圧上昇に影響する可能性が示唆された。